



UNIPRES



ユニプレス株式会社

証券コード: 5949

2019年9月



UNIPRES CORPORATION



1. 会社概要

2. ユニプレスの強みと成長戦略

3. 中期経営戦略

4. 株主還元

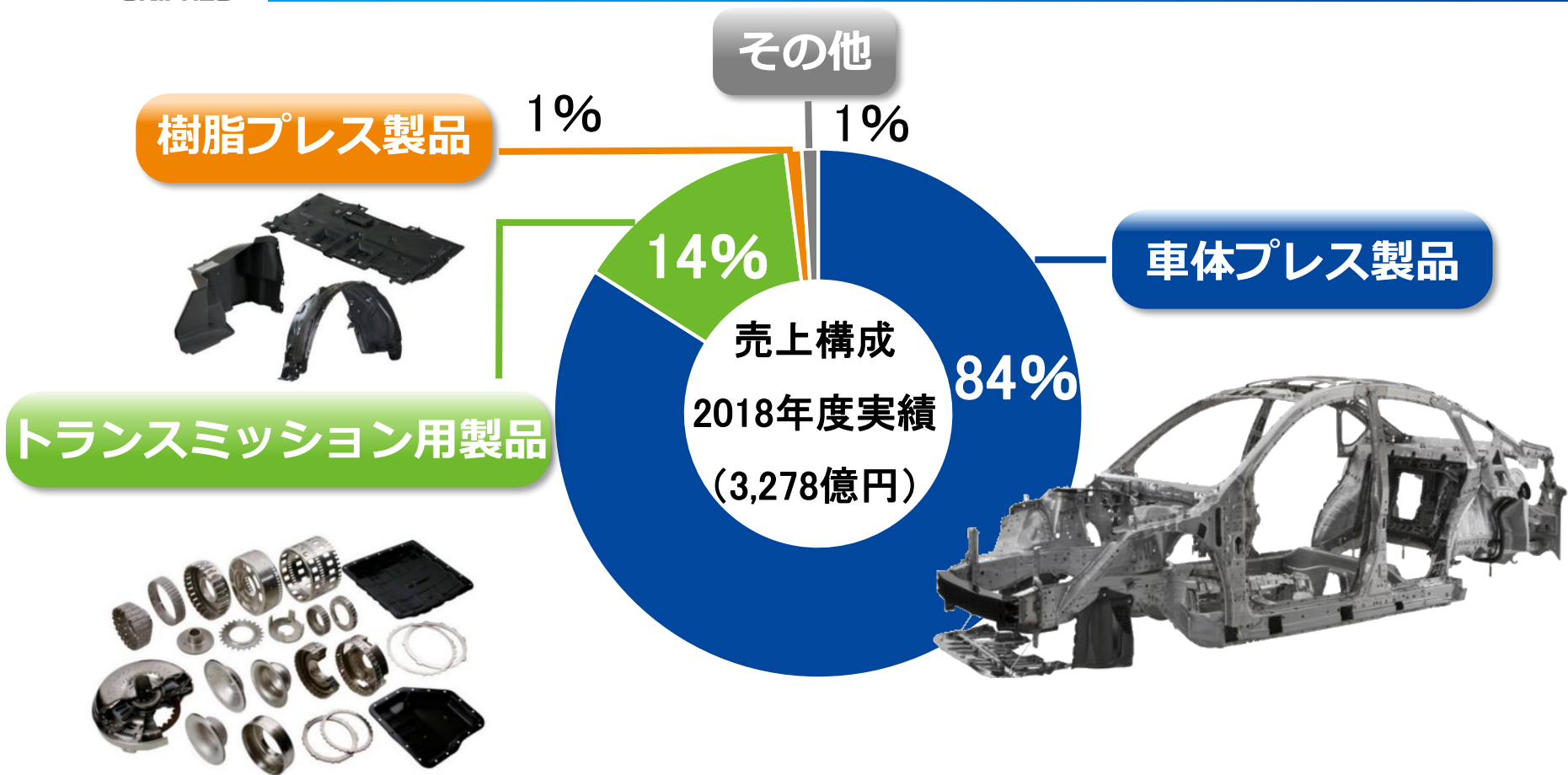


初めまして！ユニプレスです。

1. 会社概要



当社の製品とは

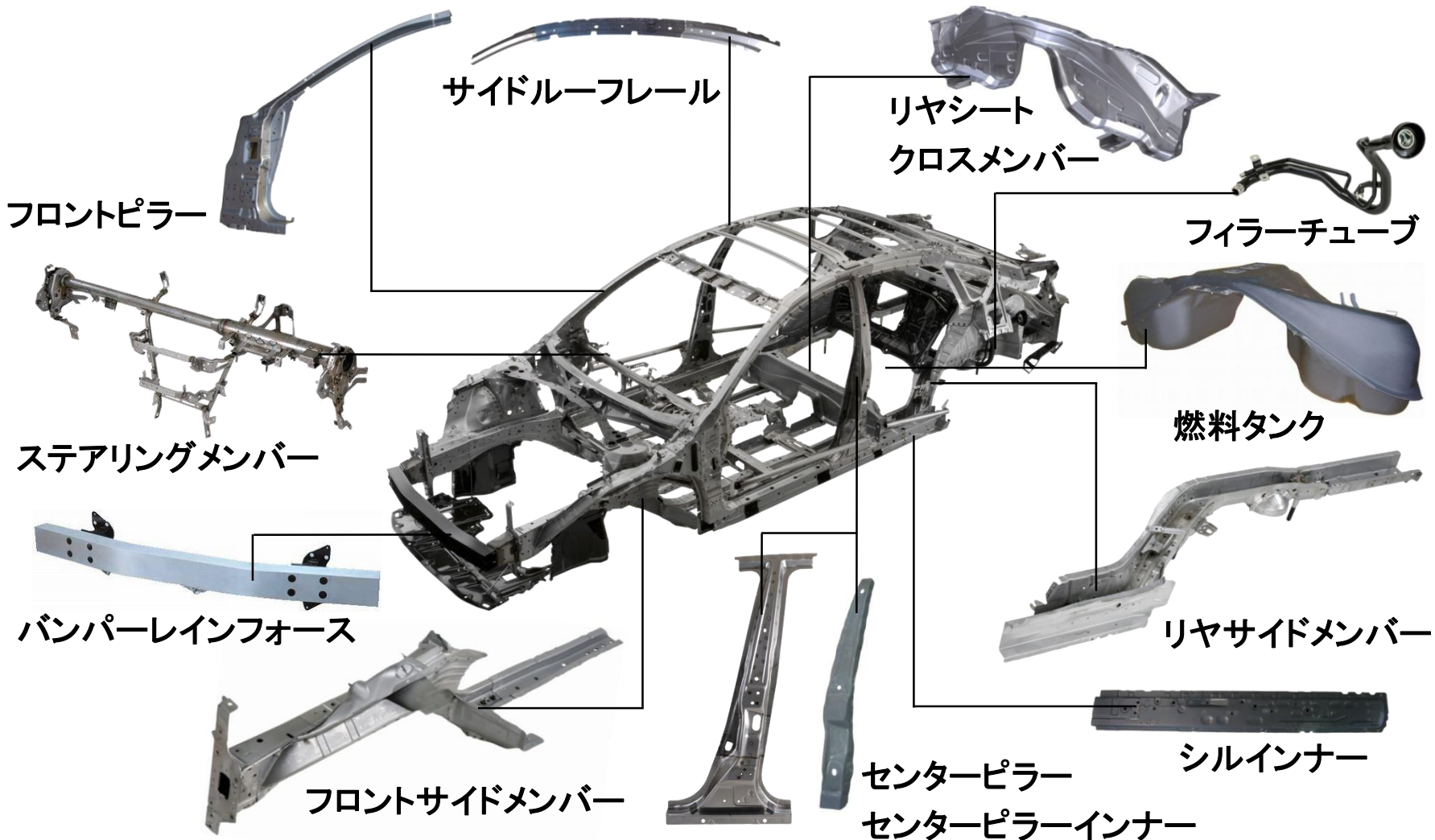


- ・車体プレス製品、トランスミッション用製品、樹脂プレス製品を生産
- ・売上構成比は、車体プレス製品が84%を占める



UNIPRES

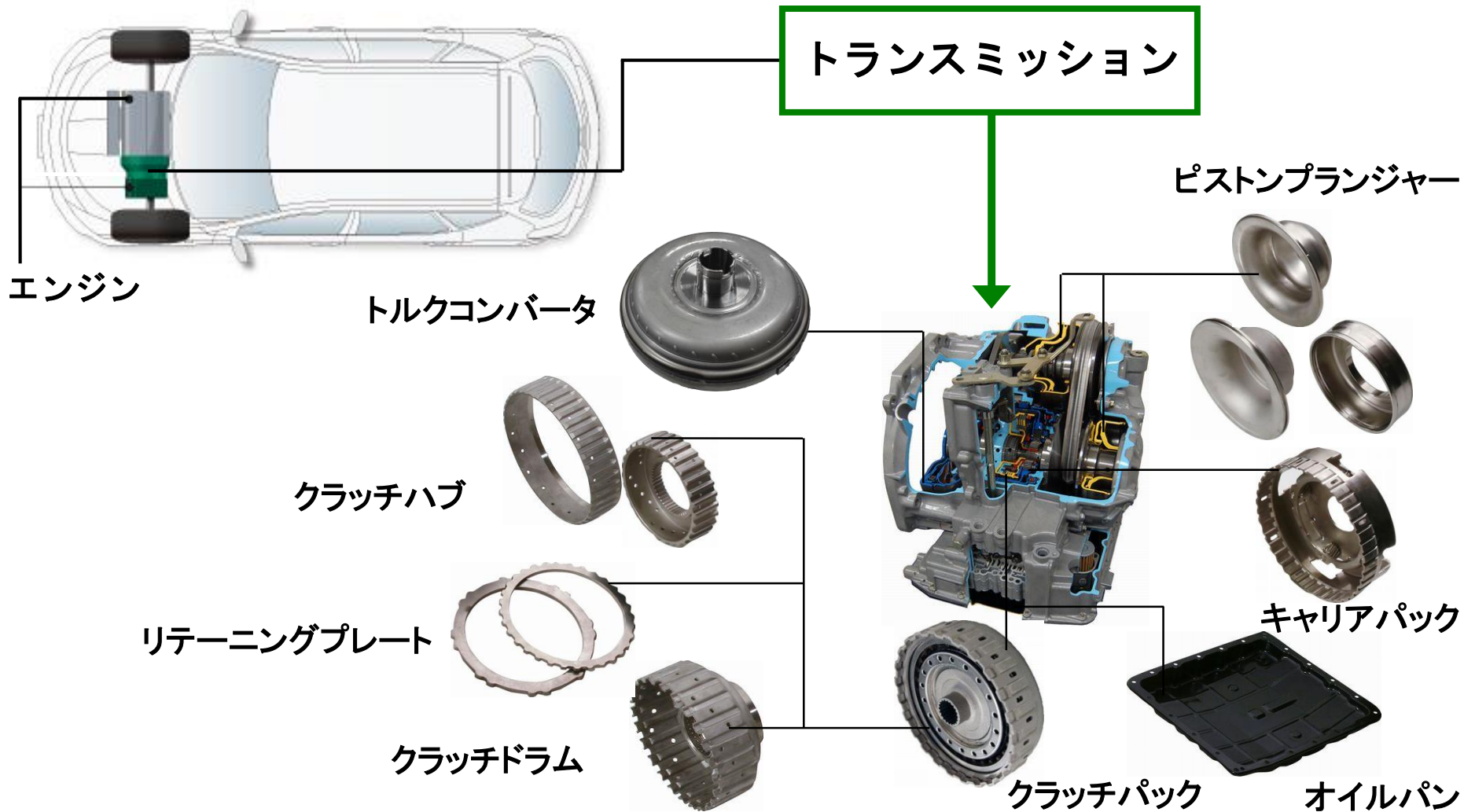
車体プレス製品



衝突安全性や燃費向上のための軽量化を支える重要な骨格部品等を生産



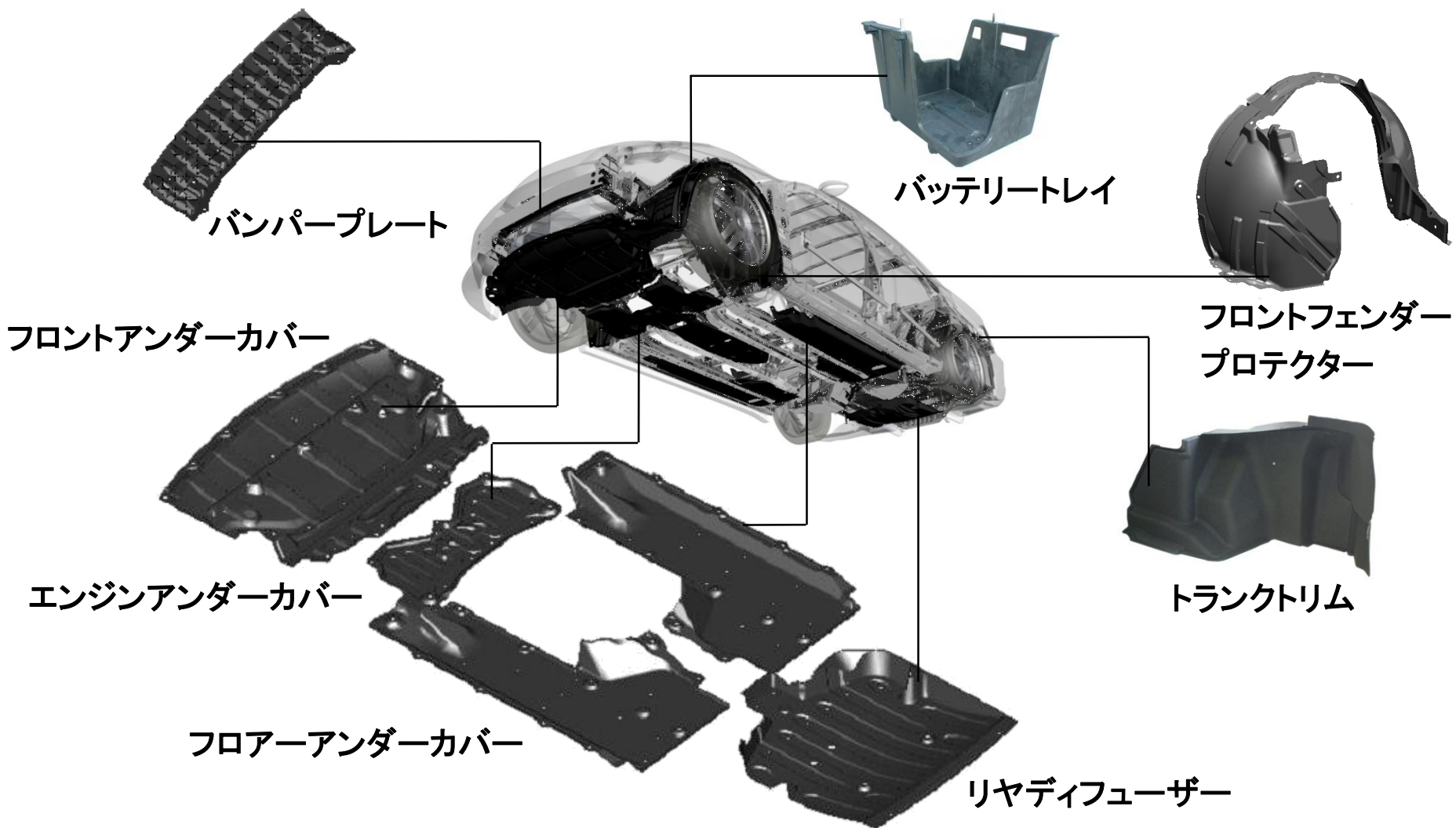
トランスミッション用プレス製品



精密さと強度を求められるトランスミッション用部品を生産



樹脂プレス製品



独自のプレス工法で軽量、低コストな樹脂部品を生産



身近な当社製品

NISSAN

デイズ



ノート



リーフ



HONDA

フィット



セレナ



エクストレイル



GT-R



フリード

MAZDA

アテンザ



アクセラ



N-BOX



SUZUKI

ラパン



エクリプスクロス



デリカD:5



SUBARU



インプレッサ



国内大手メーカーと取引



グローバル拠点一覧

ユニプレスヨーロッパ
ユニプレスイギリス

ユーエムコーポレーション

ユニプレスタイ

ユニプレスインド

ユニプレスインドネシア

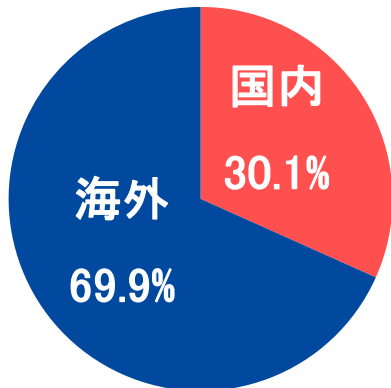
ユニプレス(中国)
ユニプレス広州
ユニプレス鄭州
ユニプレス精密広州
ユニプレス東昇大連
東風ユニプレスホットスタンプ

ユニプレスノースアメリカ
ユニプレスアメリカ
ユニプレス
サウスイーストアメリカ
ユニプレスアラバマ

ユニプレスメキシコ

マニュエットオート
モーティブブラジル

【売上比率(2018年度)】

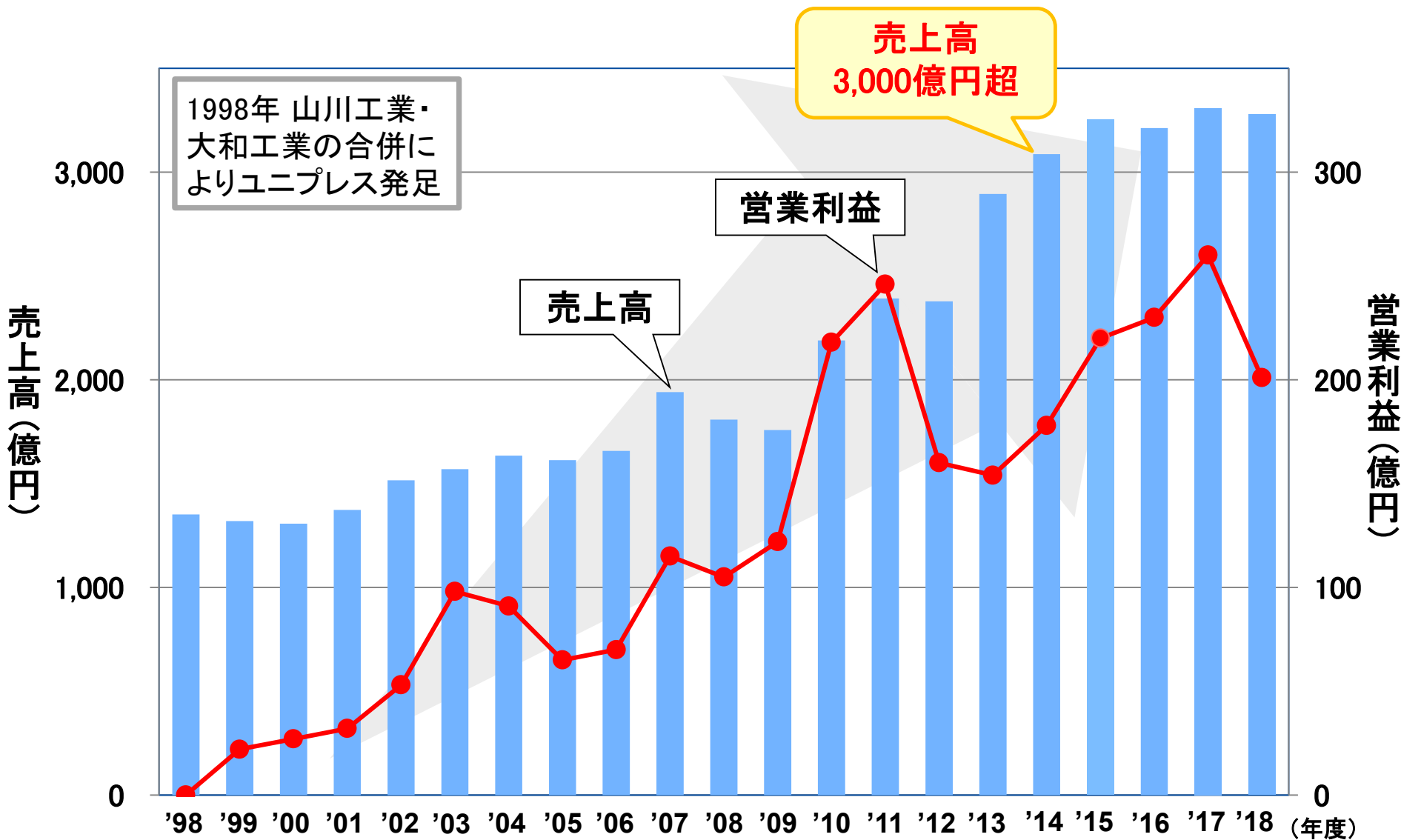


本社
ユニプレス技術研究所
相模事業所
富士事業所
栃木工場(真岡)
栃木工場(小山)

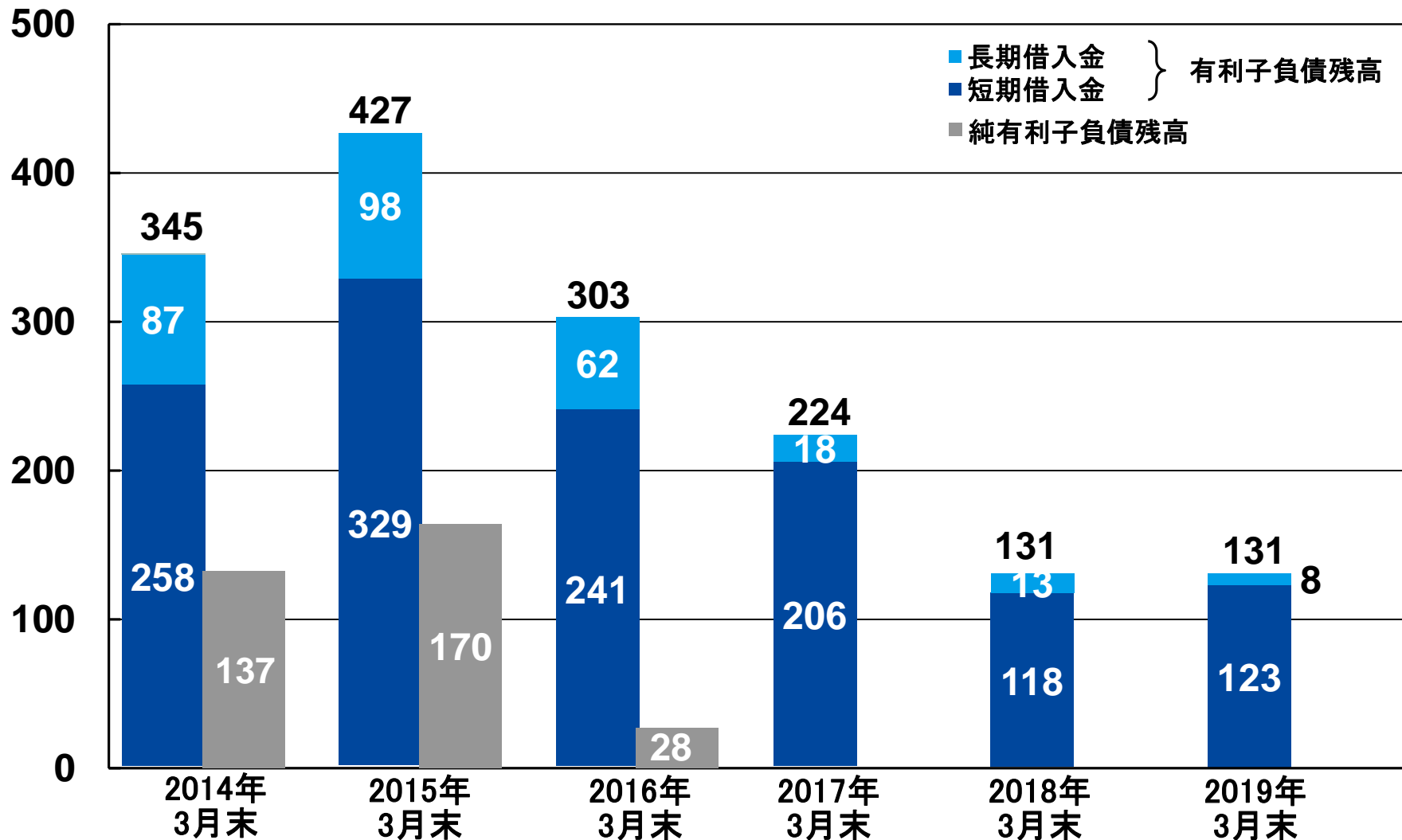
ユニプレス九州
工機工場
富士工場(富士)
富士工場(富士宮)
ユニプレス精密
ユニプレスモールド



連結収益の推移



有利子負債・純有利子負債残高の推移



・実質、無借金の状態を継続



業界内の位置づけ

<同業の上場会社との比較>

【各社開示資料より】

	ヨロズ	東プレ	フタバ産業	ジーテクト	プレス工業	エフテック	エイチワン	ユニプレス
売上高			1位	3位				2位
営業利益		2位		3位				1位
経常利益		1位		3位				2位
当期純利益		1位		3位				2位
時価総額		1位		3位				2位
資本金			1位		3位			2位
従業員数			1位	3位				2位

(2019年3月31日現在)



グローバルNo.1を目指す

2. ユニプレスの強みと成長戦略

1

電動化（EV化）対応

2

ルノー・日産・三菱連合への対応

3

新規拡販の推進



1) 電動化 (EV化) 対応

自動車産業は

『100年に一度の大変革期』を迎えている

Connected
つながる

Autonomous
自動運転

Sharing
シェアリング

Electricity
電動化

当社に大きく影響するのは電動化(EV化)

EV転換を促進する各国の動向

	アメリカ	カナダ	EU	中国	インド
ZEV規制	✓ ※	✓ ※		✓	
インセンティブサポート	✓	✓	✓	✓	✓
目標設定	✓ ※	✓	✓	✓	✓
補助金政策		✓		✓	

※州/県/地方でのみ実行されます。

出典:IEA「Global EV Outlook 2019」



EV化の進展による当社への影響

EV化が進展すると…

当社への影響

航続距離を伸ばすため
更なる車体の軽量化が
求められる

○ 強みである軽量化技術
(ハイテン・ホットスタンプ)の
採用部位拡大

エンジン(内燃機関)が
不要になる

○ 精密プレス技術を活かした
EV部品の開発

車載用電池搭載用
バッテリーケースの
需要が増加する

○ 販売台数EV車世界一※の
「日産リーフ」バッテリーケース
生産ノウハウを活かせる

※2019年3月現在



車体部品軽量化技術開発の取り組み

～16年度	17年度	18年度	19年度～
<p>■冷間プレス ※Mpa(メガパスカル)・Gpa(ギガパスカル):引っ張り強度</p>			
<p>超ハイテン材(1.2GPa) 難成形技術・ 高成形性980MPa材 部品の適用拡大</p>	<p>更なる超ハイテン材 (1.5GPa)の成形技術(量産化)</p>		
<p>■ホットスタンプ</p>			
<p>深絞り技術・ 生産性向上</p>	<p>原価低減技術</p>		
<p>■アルミニウムの適用</p>			
<p>車体骨格部品の成形技術と接合技術</p>			
<p>■CFRPの適用 ※CFRP:炭素繊維と樹脂との複合材料 (炭素繊維強化プラスチック)</p>			
<p>基礎的な成形技術</p>			



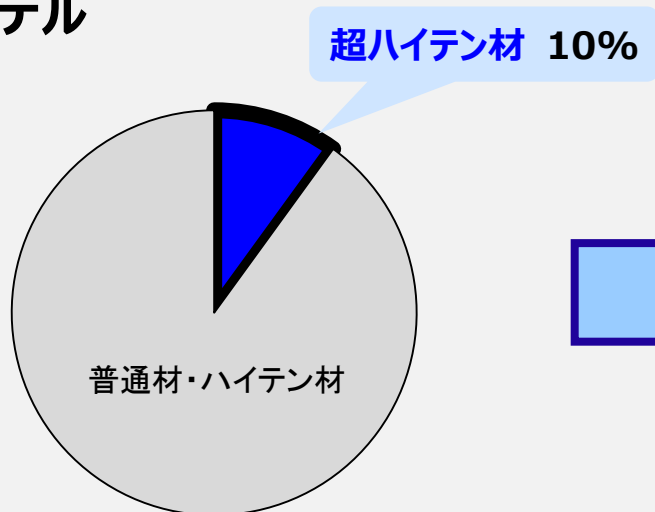
超ハイテン材、ホットスタンプ材の使用率拡大

- ・グローバルに衝突安全規制・評価が厳しくなっている
- ・航続距離を伸ばすため更なる車体の軽量化が求められる

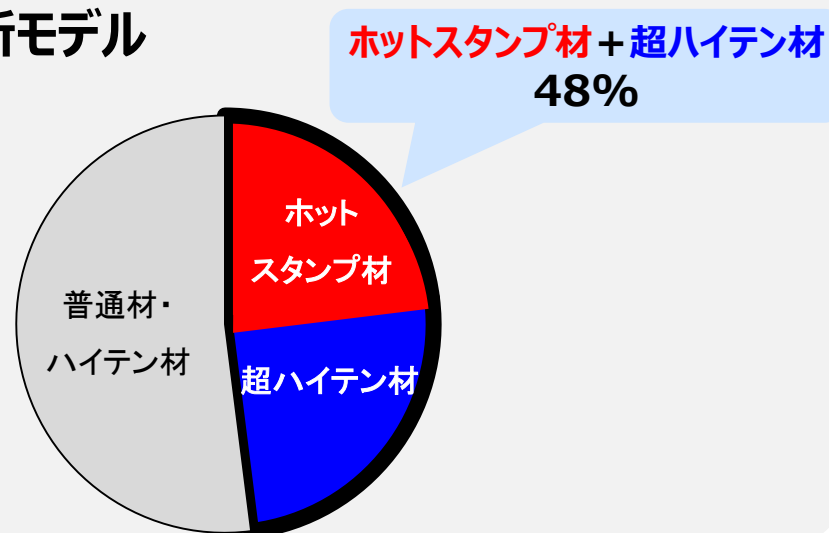
超ハイテン材、ホットスタンプ材の使用比率が
年々高まっている

当社受注の自動車骨格部品の高強度材使用率(重量比)

旧モデル



新モデル



ハイテン材 (高張力鋼板)

高強度な鋼板

メリット

硬く薄くできる

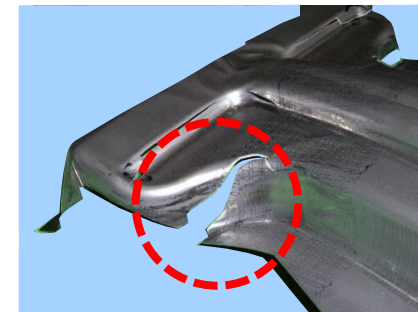
車両の軽量化

燃費向上

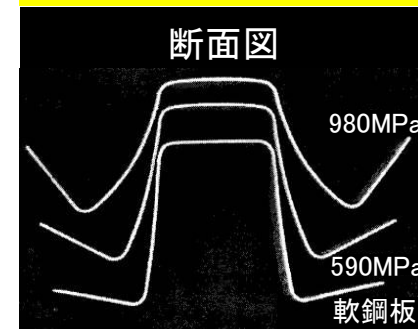
デメリット

成形加工が難しい

高度な技術が必要



割れが発生しやすい



スプリングバック

当社はハイテン材製品の開発～試作～量産が強み

高強度と軽量化の両立を実現

栃木工場
3000トントランスファープレス



ユニプレスイギリス

3000トン TRF
3000トン TRF
2500トン TRF

栃木工場

3000トン TRF
2500トン TRF

ユニプレスアメリカ

3000トン TRF
2500トン TRF
2500トン TRF
2000トン TRF

ユニプレス鄭州

3000トン TRF

ユニプレス九州

3000トン TRF
3000トン TRF
2500トン TRF

ユニプレスアラバマ

3000トン TRF

ユニプレスインド

2000トン TRF

ユニプレス サウスイーストアメリカ

3500トン TRF
2500トン TRF

ユニプレス広州

3000トン TRF
2500トン TRF
2000トン TRF

ユニプレスメキシコ

3000トン TRF
2500トン TRF
2500トン TRF
2000トン TRF

ユニプレス インドネシア

2000トン TRF

マニュエットオート モーティブブラジル

2000トン TRF

TRF: トランスファープレス

- ・ハイテン部品を量産できる大型トランスファープレス(2000~3500トン)を
全世界に26台導入済み

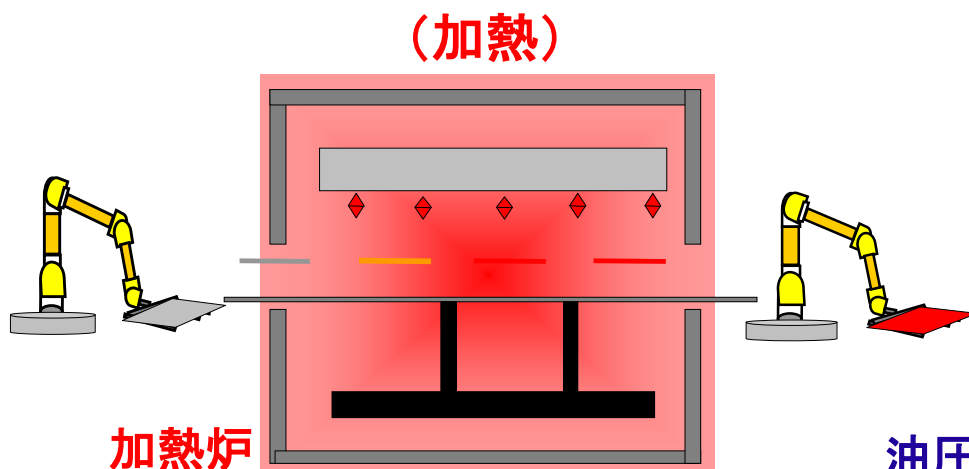


ホットスタンプ工法

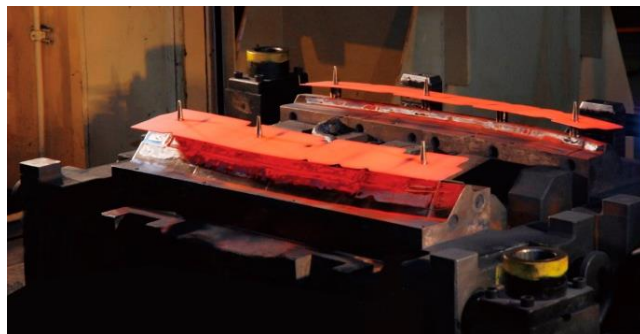
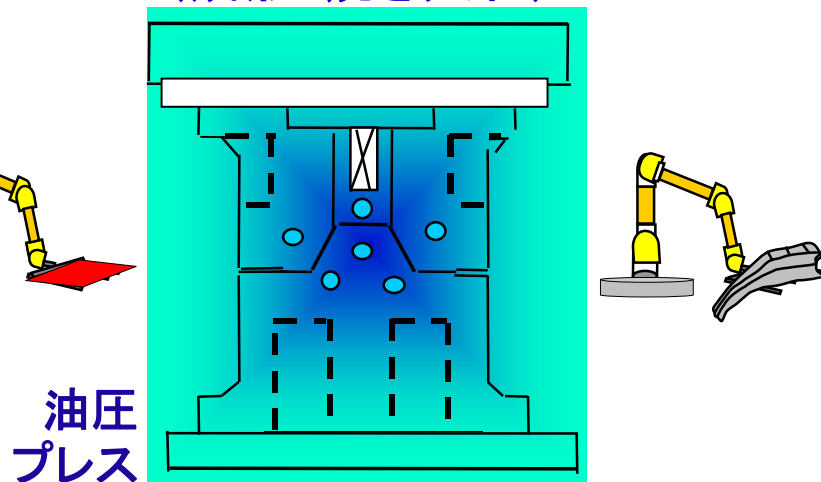
ホットスタンプ工法

鋼板を加熱し、プレス成形と同時に急速冷却することで
焼き入れを行い、1.5GPa以上の高強度製品の加工を実現

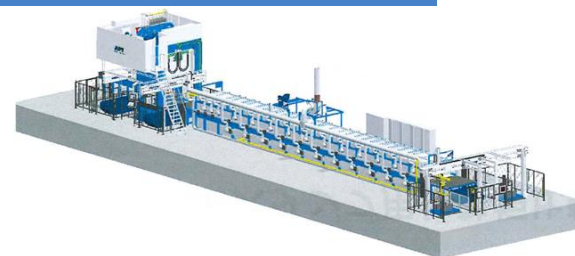
(材料)



(成形・焼き入れ)



ホットスタンプライン





ホットスタンプ(導入計画)

新車受注にあわせて更に追加導入を決定

ユニプレスイギリス

■1ライン

■2020年度 稼働予定

ユニプレスイギリス

1ライン

ユニプレスアラバマ

■1ライン

■2020年度 稼働予定

ユニプレス九州

■1ライン

■2019年度 稼働予定

栃木工場(真岡)

■1ライン

■2020年度 稼働予定

栃木工場(小山)

2ライン

東風ユニプレス
ホットスタンプ(鄭州)

■1ライン

■2020年度 稼働予定

東風ユニプレス
ホットスタンプ(広州)

■1ライン

■2019年度 稼働

ユニプレスメキシコ

■1ライン

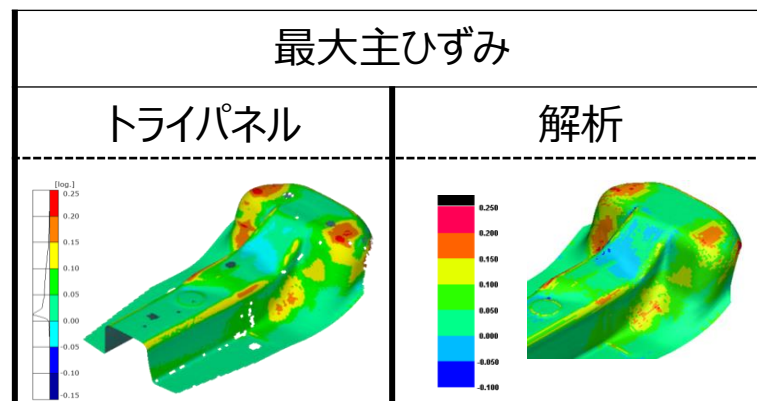
■2019年度 稼働予定



アルミ材対応

アルミ車体骨格部品に対応できる技術開発を推進中

■成形技術（厚板ドロ一部分成形と予測技術）



・材料パラメータと最適な摩擦係数の設定により解析評価を可能とした

■接合技術

・ RSW技術 (Resistance Spot Welding)

ー アルミ 抵抗スポット溶接によるプレス部品接合技術推進

・ SPR技術 (Self-Pierce Rivet)

・ FDS技術 (Flow Drill Screw)

プレス部品とダイキャスト・押し出し部品
接合技術推進

電動化の進展

車体の更なる軽量化

樹脂製バッテリーケース(上蓋) の開発

スチール製→樹脂製
軽量化△70%



樹脂製バッテリーケース(上蓋)

空力性能向上

EV車、HEV車では、航続距離を延ばすため、空力性能の向上が求められる

アンダーカバー類の大型化や採用拡大が見込まれる

大型製品の低圧成形が可能な
当社にとってオポチュニティ

「日産リーフ」
樹脂製アンダーカバー



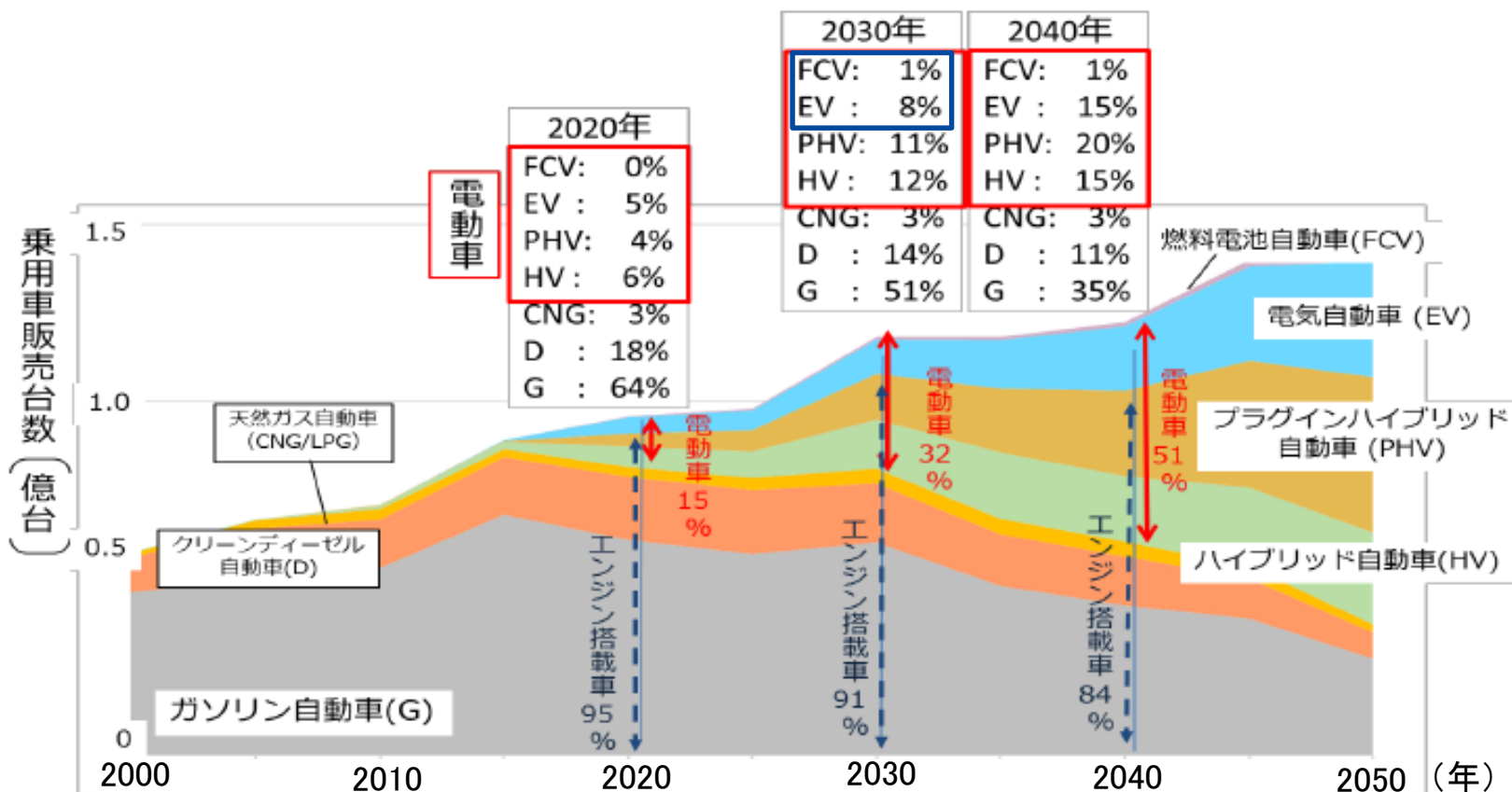


トランスミッション部品事業 技術開発の方向性

■ 電気自動車・燃料電池自動車の比率:2030年で9%(IEA予測)

・エンジン搭載車の生産はまだ伸びるため、トランスミッション部品の拡販は継続

・2030年以降の電気自動車比率の拡大に備え、技術開発を推進



経済産業省「自動車新時代戦略会議(第1回)資料」より抜粋 (出所) IEA「ETP(Energy Technology Perspectives) 2017」に基づき作成



2) ルノー・日産・三菱連合への対応



共通プラットフォームについて

プラットフォームとは・・・フレームやサスペンション、ステアリング、パワートレインといった車を構成する基本部品の一連の組み合わせのこと



日産「エクストレイル」



日産「ローグ」



ルノー「カジャー」



ルノー「コレオス」

例えば、上記4車種は、同じプラットフォームを使用

ルノー・日産・三菱は、共通プラットフォームの使用を増やし、2022年までに4つのプラットフォームで900万台以上をカバー
(ルノー・日産・三菱 新6か年計画「アライアンス2022」より)



共通プラットフォーム車向けの部品の受注は非常に重要



日産車の受注状況／拡販戦略

米国

アルティマ



インフィニティQX50



中国

ティアナ



インフィニティQX50



シルフィ



メキシコ

ヴァーサ



- ・ 日産の全乗用車について、今後も確実な受注をグローバルで狙う



日産“新型デイズ”受注状況

2019年3月に発売された日産・三菱共通プラットフォームの
軽自動車の車体骨格部品を新規受注。
加えて、樹脂部品、トランスミッション用部品を継続受注。

【受注部品】



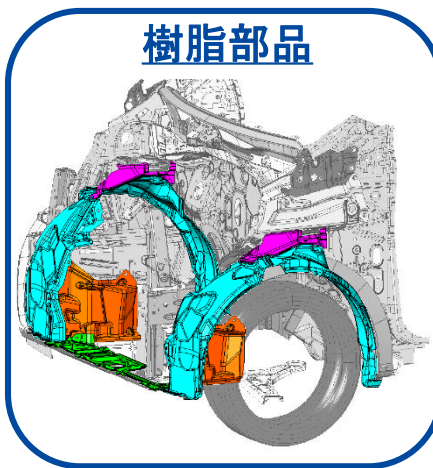
日産「新型デイズ」



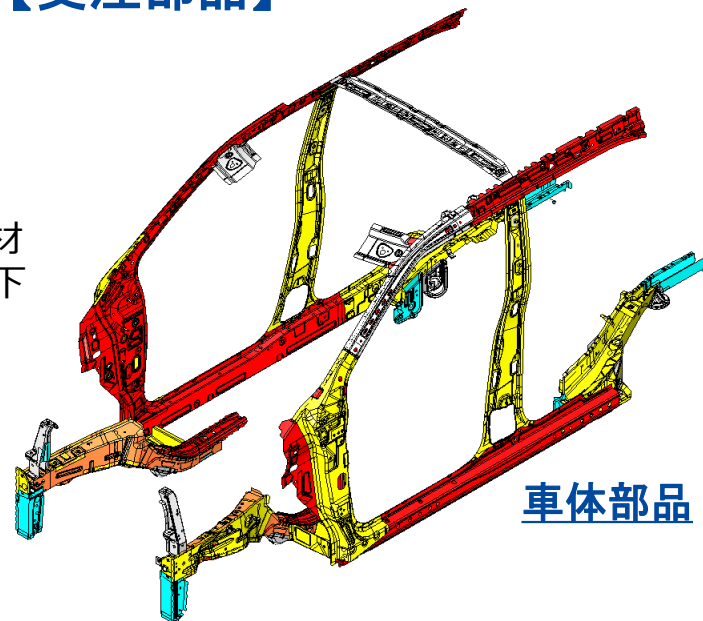
三菱「新型eKワゴン」

- 980MPa
- 780MPa
- 590MPa
- 440MPa
- 340~370材
- 270MPa以下

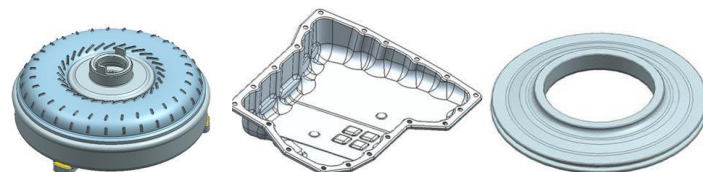
樹脂部品



車体部品



トランスミッション用部品



イギリス

カジャー



中国(東風ルノー)

カジャー

コレオス



インド

ロジュー

キャプチャー



ダスター

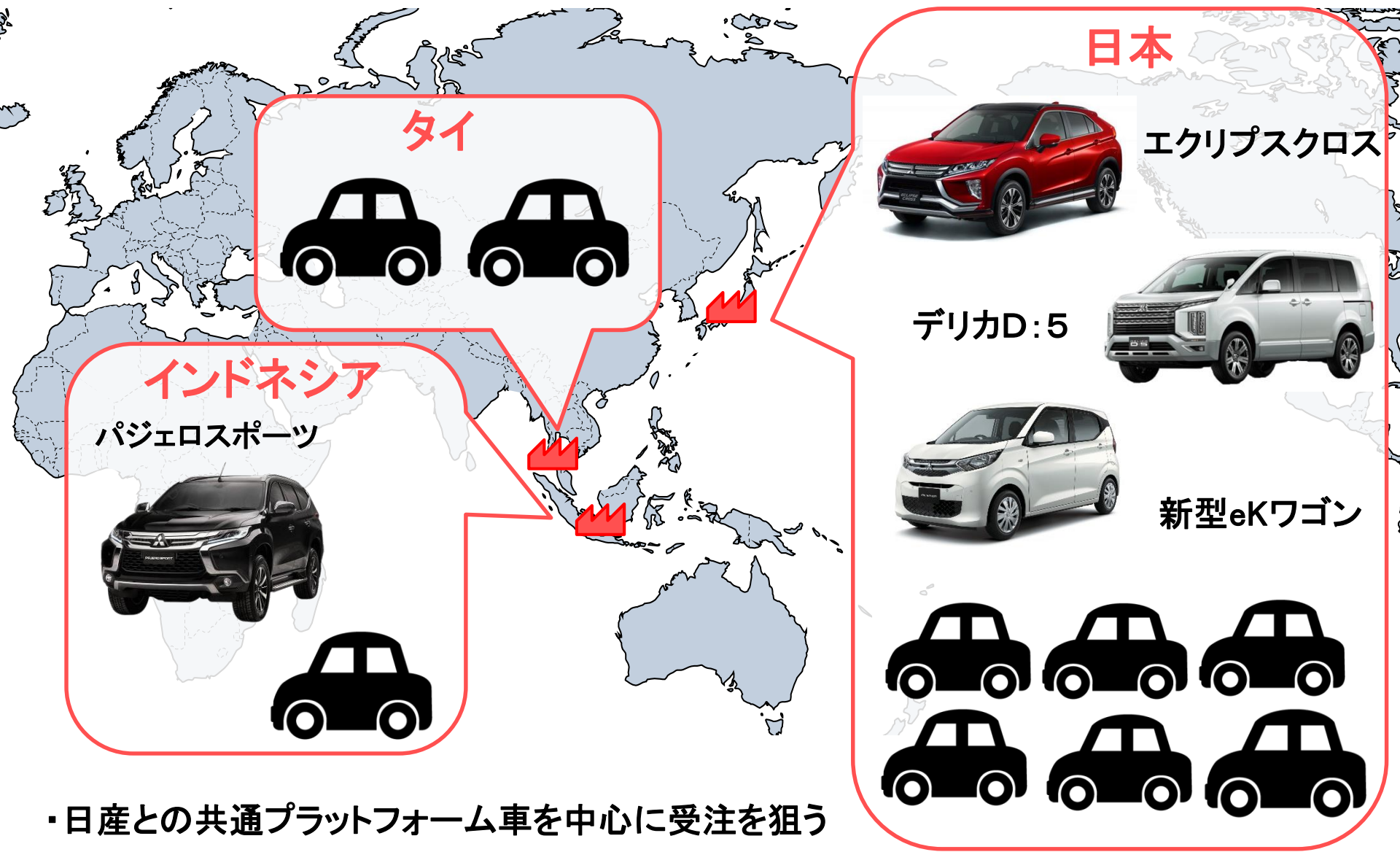
トライバー



- ・ 今後も日産との共通プラットフォーム車を
中心に受注を狙う



三菱車の受注状況／拡販戦略



・日産との共通プラットフォーム車を中心に受注を狙う

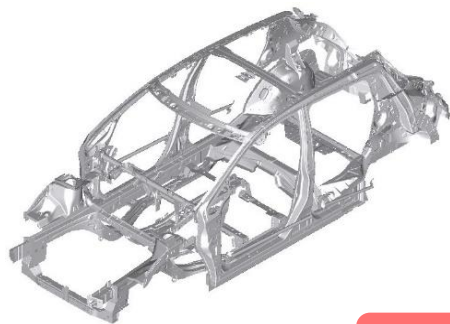


EV車の受注状況

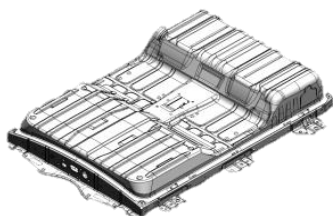
航続距離を伸ばすため更なる車体の軽量化が求められ、
強みである軽量化技術の採用部位拡大が見込まれる

<日産新型リーフ受注状況>

車体骨格部品ほぼ全量



バッテリーケース



樹脂アンダーカバー



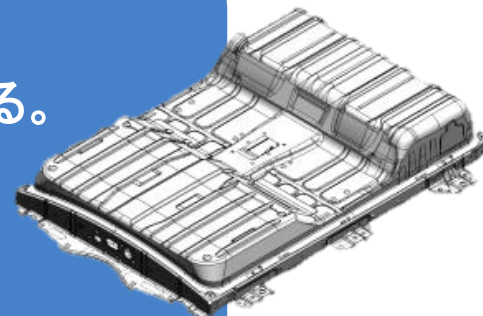


バッテリーケースの売り上げ見通し

- ・日産は2022年度までに電動車（EV、P-HEV、e-POWER）の販売をグローバル全販売台数の30%を目指す。
- ・ルノー・日産・三菱アライアンスでも電動車の拡大が見込まれる。

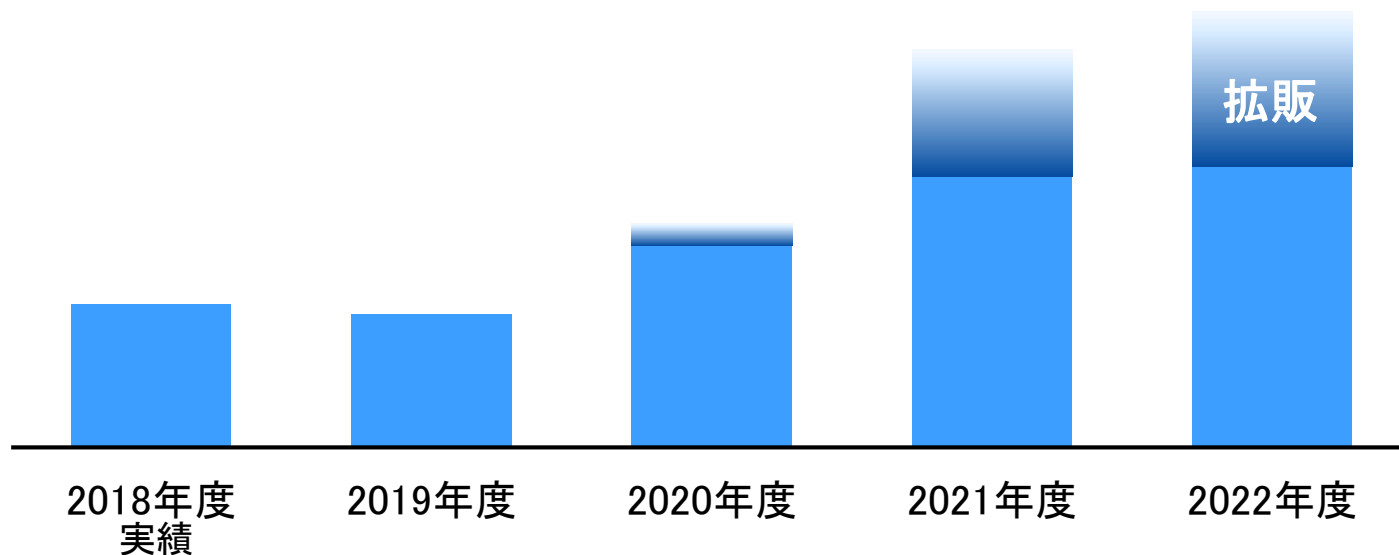


リーフのバッテリーケース独占生産の実績を活かし、
今後開発される電動車のバッテリーケース受注を狙う



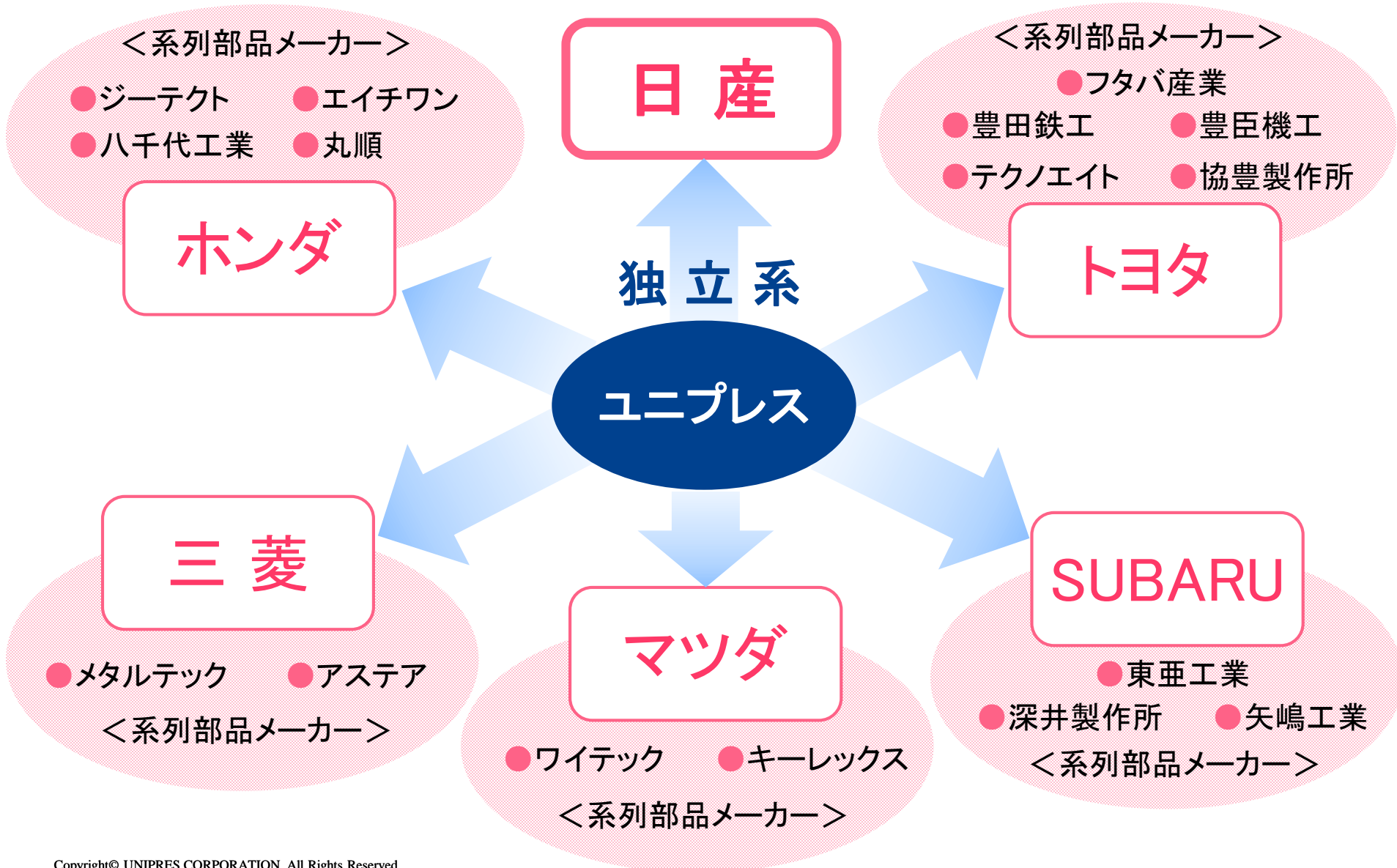
「日産リーフ」
バッテリーケース

【バッテリーケース売上計画】





3) 新規拡販の推進



ホンダ

車体プレス製品・
トランスミッション用プレス製品・
樹脂プレス製品すべてに
おいて一番の拡販先

トヨタ

トランスミッション用
プレス製品の拡販を狙う
(納入先:アイシンAW)

三菱

日産との共通プラット
フォーム車を中心に
新規拡販を狙う

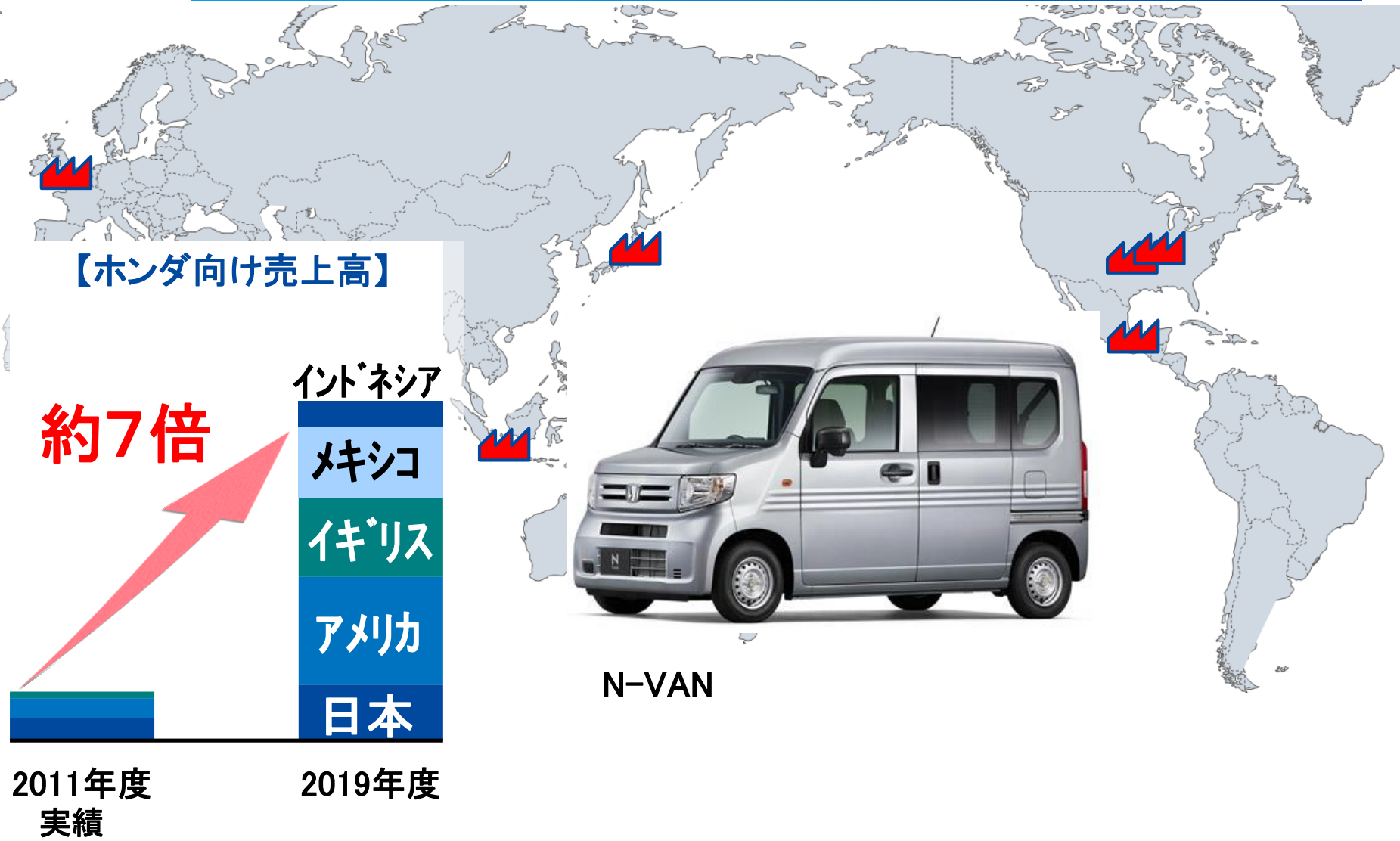
SUBARU

トランスミッション用
プレス製品を
中心に拡販

マツダ

車体プレス製品・
樹脂プレス製品を
中心に拡販

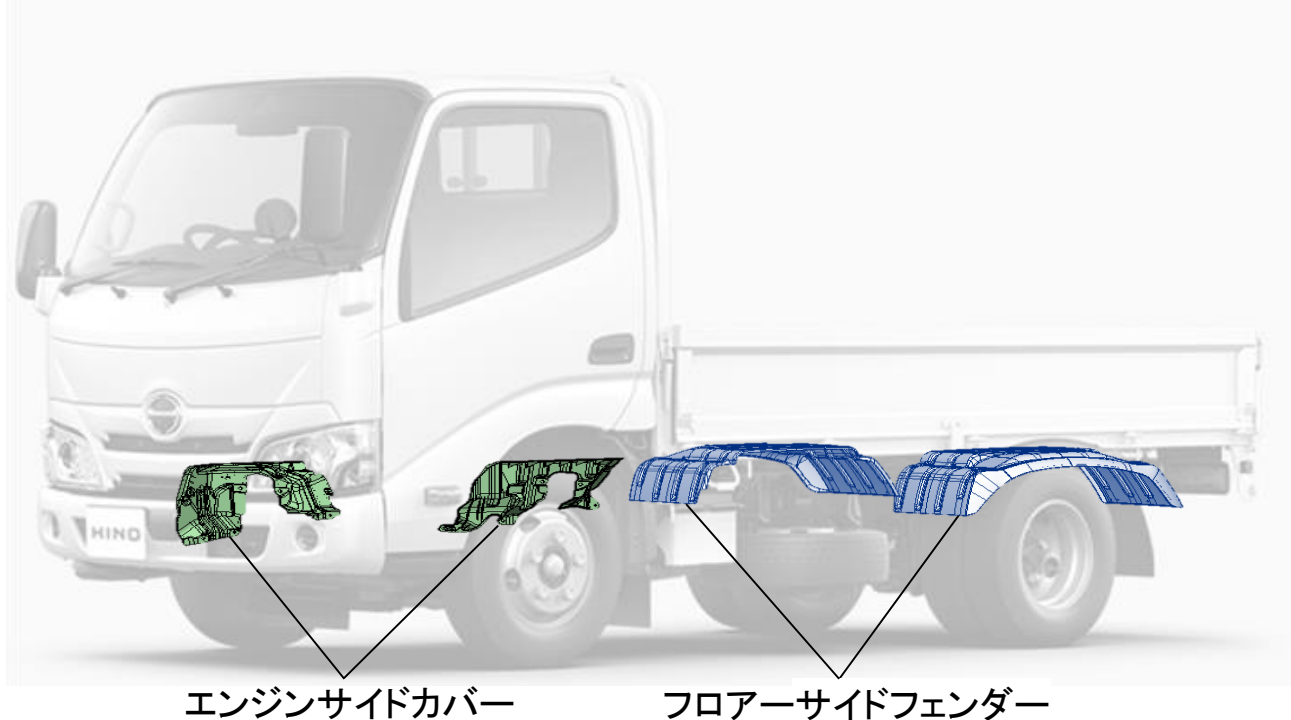
ホンダ車の受注状況／拡販戦略



・ホットスタンプ部品を中心に、グローバルで受注拡大を狙う

- ・日野自動車から、「デュトロ」向け樹脂部品を新規受注
- ・ユニプレスとして日野自動車より初受注
- ・2019年5月生産開始

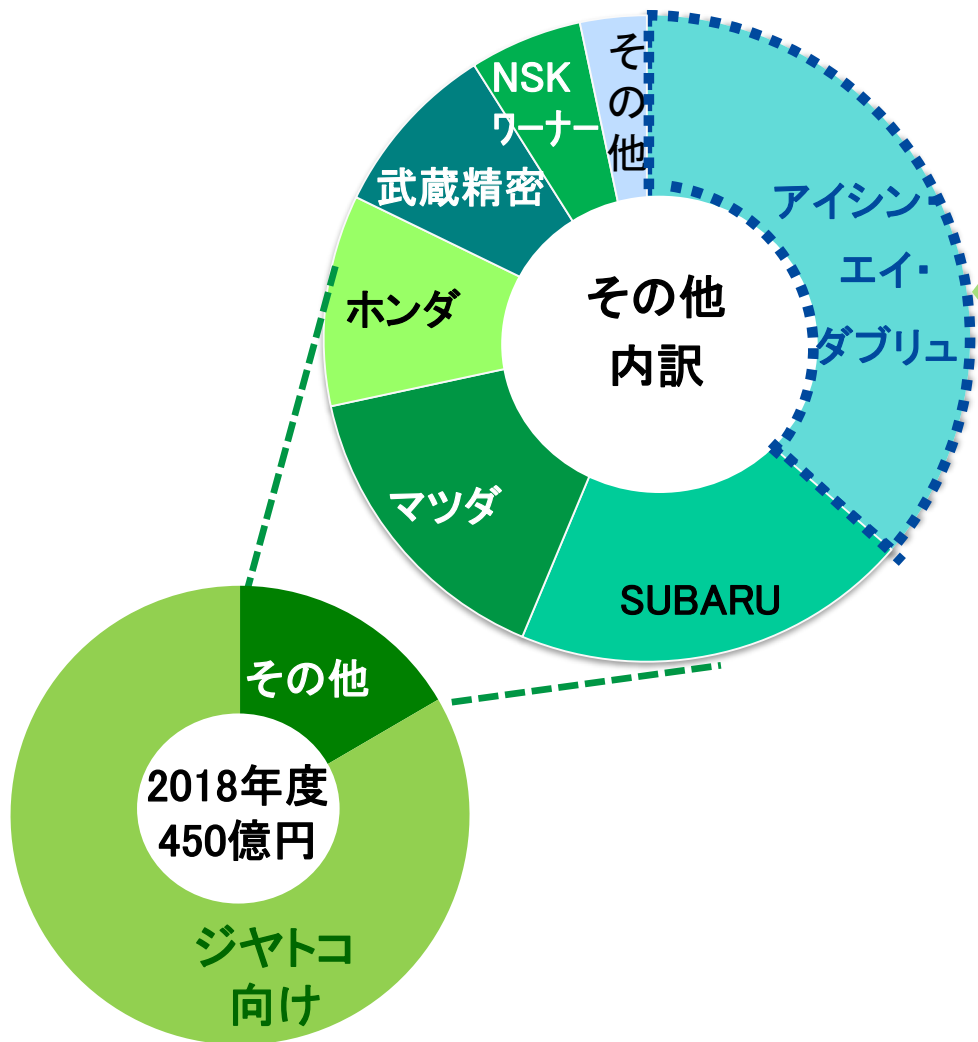
●受注部位



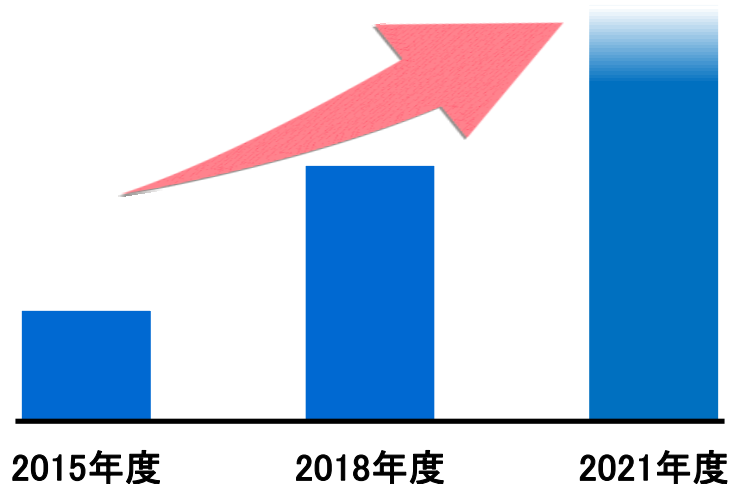
- ・積極的な技術提案により、継続的な受注を目指す



トランスミッション部品事業の受注状況／拡販戦略



アイシン・エイ・ダブリュ向け グローバル売上



アイシン・エイ・ダブリュより、 サブアッセンブリー部品を初受注



ピストンサブアッシー



シリンダーサブアッシー



UNIPRES

『オートモーティブ ワールド2019』出展

クルマの先端技術分野において世界最大の展示会である
 「オートモーティブ ワールド」に2年連続出展。
 カーメーカーを中心とした来場者に当社技術を積極的にPR



【オートモーティブワールド2019】
 会期:2019年1月16日~18日
 会場:東京ビッグサイト

＜来場者からの反響例＞

- ・高成形性980Mpa材部品
- ・ホットスタンプ部品
- ・バッテリーケース(小ピッチ溶接)
- ・樹脂製バッテリーケース上蓋
- ・トランスミッション部品



3. 中期経営戦略

【経営理念】

「プレスを究めて、プレスを越える」

■ 目指すべき企業の姿

1. 市場ニーズを先取りした技術開発型企业
2. 競争力No.1を維持するコスト開発型企业
3. 自動車産業構造変化に対応したグローバル戦略企業

■ 中期経営方針

グローバルNo.1企業をめざし、UPS活動の推進により収益力と競争力を強化する。

※UPS活動(Unipres Production System)

全ての仕事の“ムダ”を発見し、仕事の仕組みを改革することで「収益力」「競争力」のある体質を作り上げる経営改革活動



経営の重要な4つの課題と取り組み

1. グローバルな生産基盤の活用・強化

■ビジネスの拡大

- グローバル拡販（ルノー・三菱・ホンダ）
- 自動車産業変革への対応

■9カ国16拠点

- 生産基盤の更なる強化

2. 技術開発の推進

■新製品・新技術の開発

- 超ハイテン／ホットスタンプ／アルミ化
対応技術
- 電動化対応技術
- 生産技術革新

■外部との共同研究拡充

- 高炉メーカー、自動車メーカー

3. 業界トップレベルの競争力

■コスト競争力強化

- UPS活動の更なる向上
- 15KPI ※Key Performance Indicator

■品質の向上

- 自動化の推進／AIの応用

4. SDGs課題を意識したCSRの取り組み

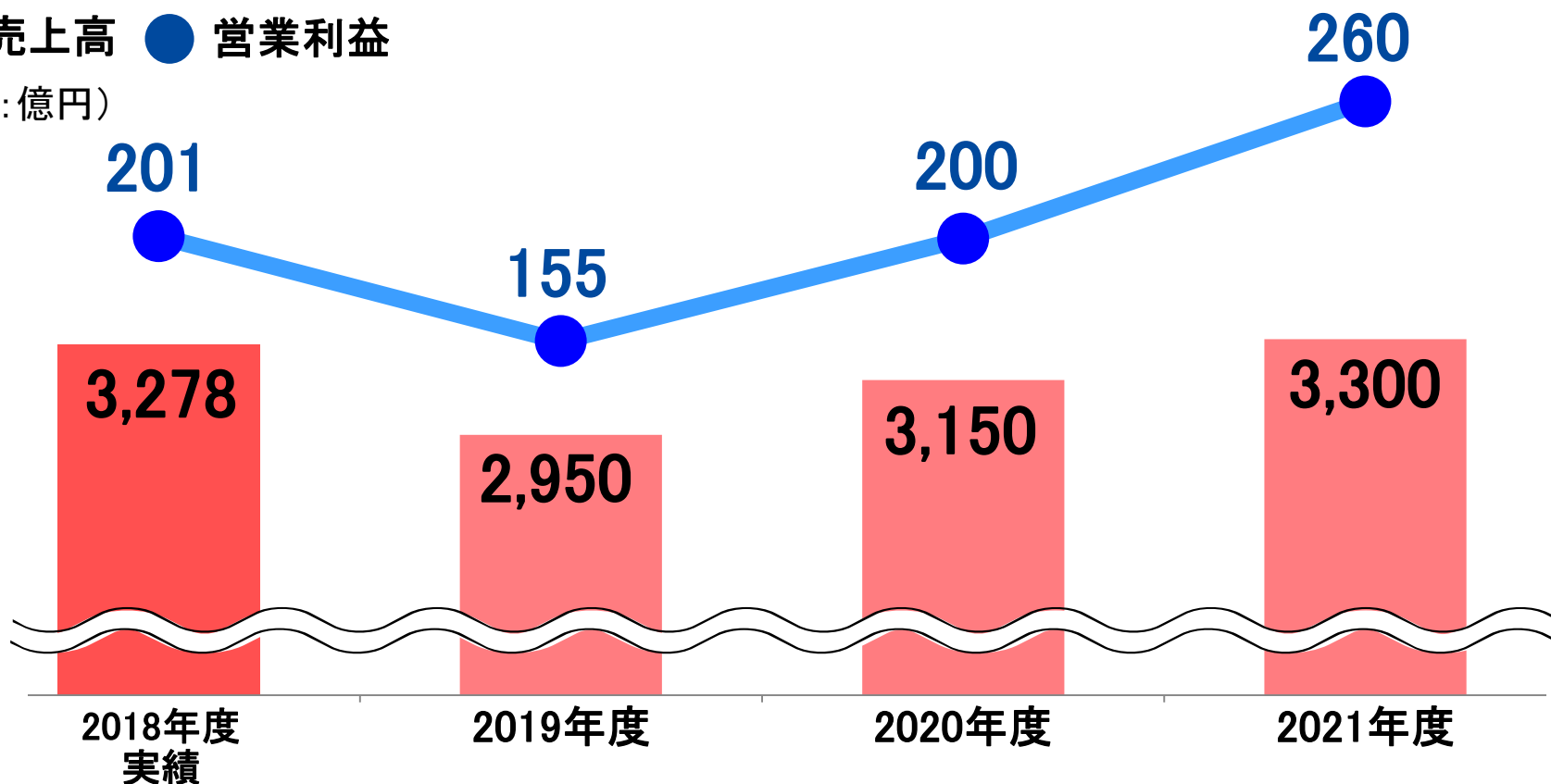


中期経営目標

- 売上高 … 着実な成長
- 営業利益 … 売上高営業利益率8%

■ 売上高 ● 営業利益

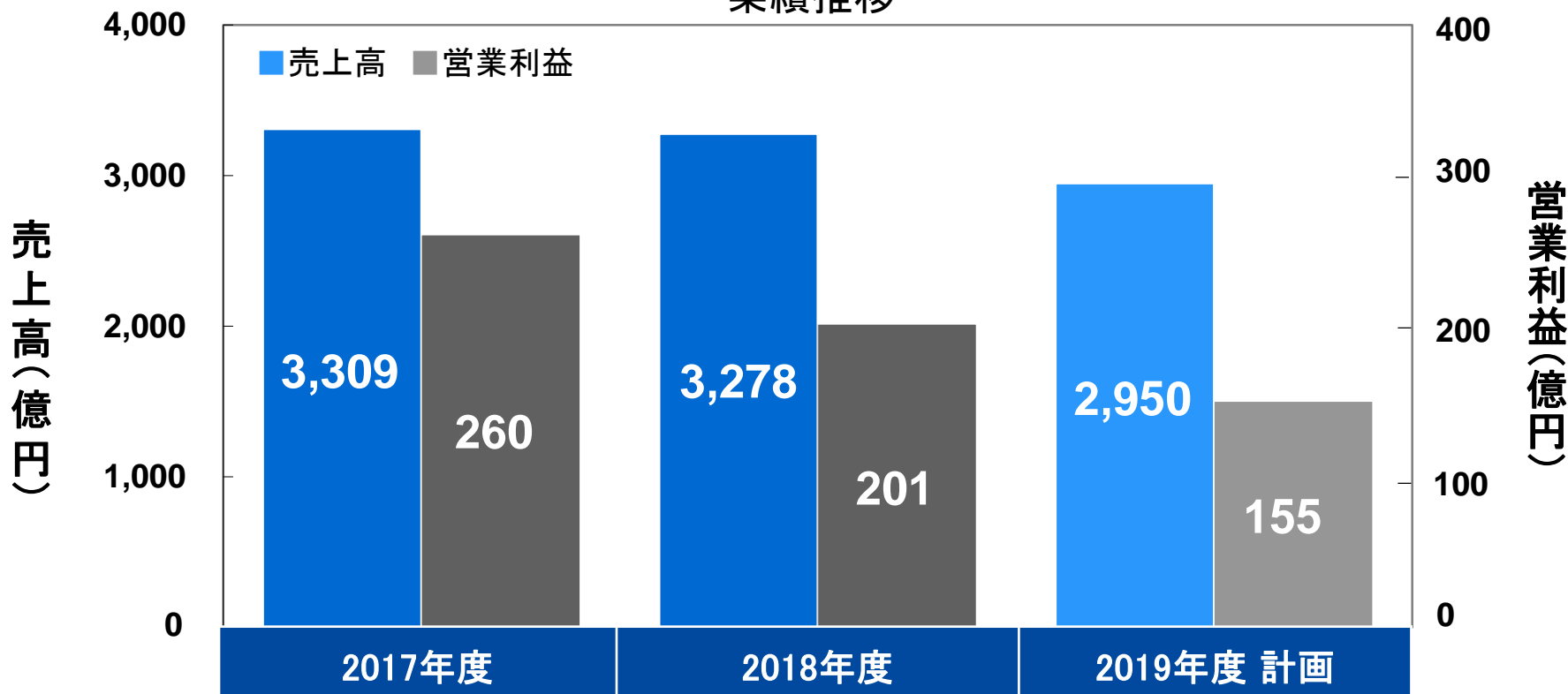
(単位: 億円)





2019年度連結業績計画

業績推移



	2017年度	2018年度	2019年度 計画
売上高	3,309	3,278	2,950
営業利益	260	201	155
経常利益	264	210	160
親会社株主に帰属する当期純利益	159	129	100



2019年5月14日に自己株式の取得実施を発表

自己株式の取得 実施内容

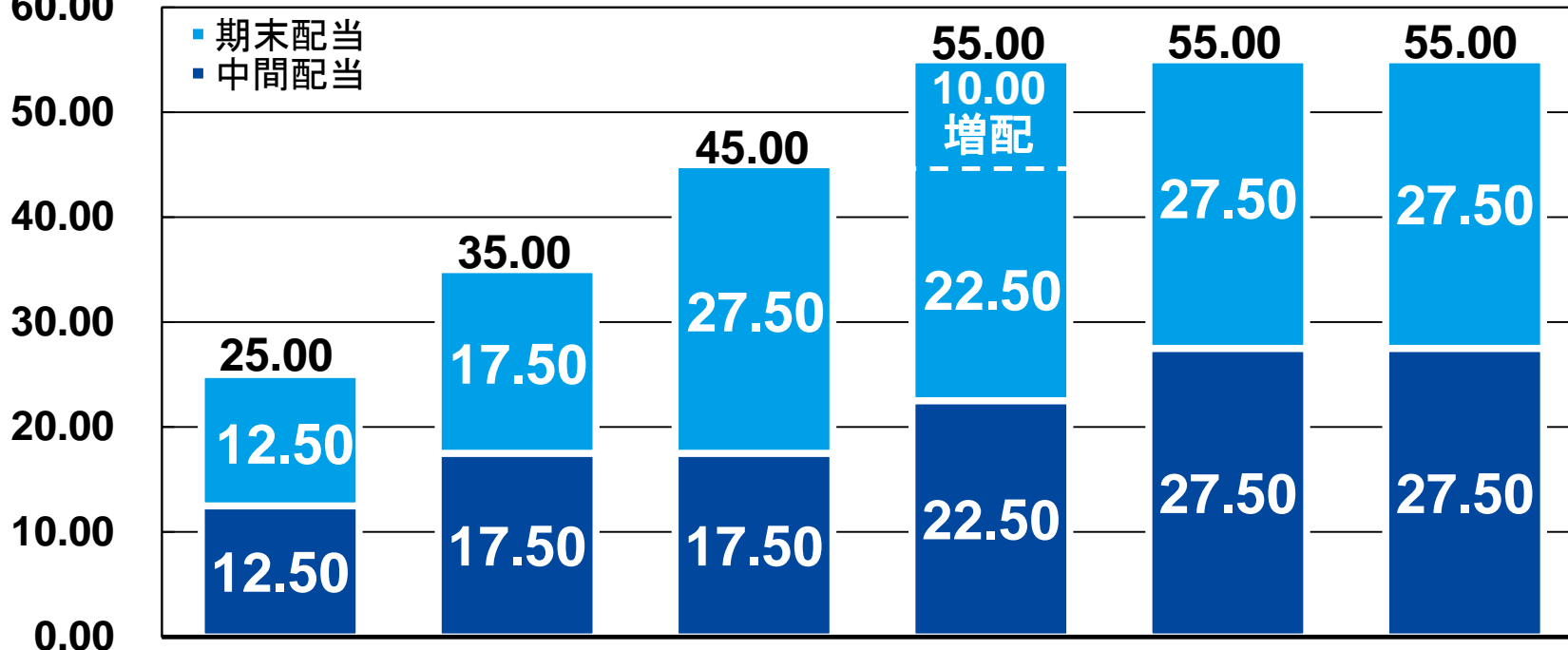
- | | |
|------------|--------------------|
| 1. 実施理由 | 株主還元 及び
資本効率の向上 |
| 2. 取得価額の総額 | 上限50億円 |
| 3. 取得株式の総数 | 上限320万株 |
| 4. 取得期間 | 2019年10月31日まで |

自己株式取得は今後も状況をみながら継続検討する



配当金推移

(円) 60.00



2014年度

2015年度

2016年度

2017年度

2018年度

2019年度
計画

配当性向

14.6%

16.1%

14.2%

16.5%

20.5%

約26%

総還元性向

約75%

- 2019年度の配当性向は約26%となる見込み
- 今年度は自己株式取得50億円を実施予定。これを受け、2019年度の総還元性向は約75%となる見込み



4. 株主還元



ポイント制 株主優待サービス

- 株主様に中長期的に当社株式を保有いただくため、長期保有優遇の株主優待制度を継続実施

長期保有するほどポイントが増加！

株式数	期間	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上
	100株以上		1,000	2,000
1,000株以上		2,000	3,000	4,000
3,000株以上		3,000	4,000	5,000

・3月31日現在の株主名簿に記載された株主の皆様が対象

- ・ 保有株式数・期間に応じて、年1回ポイントを贈呈

選べる！バラエティ豊かな優待商品

株主優待商品過去実施例

QUOカード

社会貢献型QUOカード



ユニプレスオリジナルグッズ

靴ベラ&洋服ブラシセット



食品・雑貨など数十点



環境・社会貢献活動団体への寄付



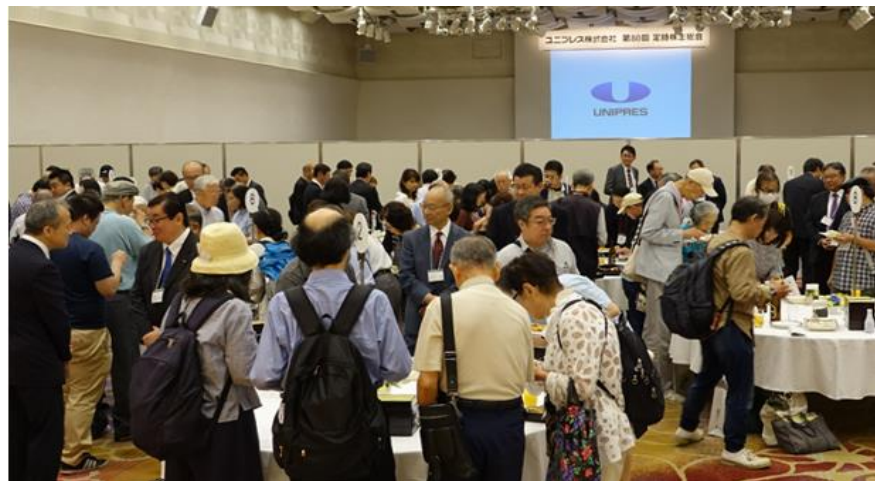
- ・more treesへ寄付
- ・交通遺児等育成基金へ寄付



- ・ポイントに応じて、オリジナルカタログから好きな商品が選べる



定時株主総会



株主総会

日時：2019年6月20日（木）

場所：新横浜プリンスホテル

株主総会にご出席
いただいた株主様へ
お土産もご用意！



※株主懇親会及びお土産は次回以降の実施については未定です。

- ・ 総会後は役員との株主懇親会を開催



JPX-NIKKEI Mid Small

- 初年度から「**JPX日経中小型株指数**」の構成銘柄に選定（2017年3月13日～）

JPX日経中小型株指数（略称：JPX日経中小型）

東京証券取引所、日本経済新聞社が共同で開発した、「投資家にとって投資魅力の高い」中小型株で構成する新しい株価指数（構成数は200銘柄）



UNIPRES

設立	1945年3月1日 【1998年4月1日山川工業(株)・大和工業(株)合併】
事業内容	自動車部品の製造及び販売
資本金	101億3,633万8,450円 (2019年3月31日現在)
売上高(連結)	3,278億円 (2019年3月期)
上場取引所	東証第一部 【証券コード:5949】
従業員数(連結)	9,962人 (2019年3月31日現在)
本社所在地	神奈川県横浜市港北区新横浜1-19-20



ステークホルダーとの相互理解や信頼関係を築きながら、成長を維持し、社会の持続的な発展につなげるための取り組みを実施



【環境】

再生可能エネルギーの導入

温室効果ガスの排出低減策の一貫として、国内各拠点に太陽光発電システムを設置

グリーン調達への取り組み

「ユニプレスグリーン調達ガイドライン」を制定。サプライチェーン全体で環境保護活動を推進

【社員】

グローバル人財の育成

グローバル人財としての基礎力を身に付けるため、海外留学制度を導入





【地域社会】 グループ全体で取り組む寄付活動

森林保全団体「more trees」や「交通遺児等育成基金」へ寄付。また、海外グループ会社においても生活用品や食糧等の寄付を通して、地域へ貢献

スポンサーシップ

横浜F・マリノス「トリコロールクラブ」
「ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド」等に協賛



子供たちの工場見学

各拠点の近隣小学校の工場見学の受け入れや、従業員の子供たちを招いて「かぞく工場見学会」を実施





「ユニプレスCSRレポート2018」発行

参考資料

ユニプレスの主要な事業

車体プレス部品

自動車の基本性能を支える主要な車体骨格部品を提供。すべての車体骨格部品をシステムとしてとらえた最適構造の提案と、ハイテン材の適用拡大などにより、車体の軽量化と安全性の両立を図っています。



<主な製品>
プラットフォーム部品、車体骨格部品、ガソリンタンク等燃料系部品、シャーシ部品、プレス用金型、溶接用設備・治具

トランスミッション部品

世界トップクラスの精度を誇るトランスミッション用精密部品を提供。独自開発のIFP (Unipres Fine Press) 工法を駆使し精密部品のプレス化を拡大。高精度・軽量化・耐久性など高度化するニーズにお応えします。



<主な製品>
オートマチックトランスミッション部品、エンジン部品、駆動トランスファー部品、プレス用金型、溶接用設備・治具

樹脂部品

強度や耐久性が求められる車体用部品の樹脂化を促進し、自動車の軽量化に大きく貢献し

ユニプレスの経営理念

「プレスを究めて、プレスを越える」

- われわれは、技術を進歩させ、応用し、革新を起こして世界に通用する自社製品の完成を目指す。
- われわれは、この役割と責任に対し、誠実をつくし、不断にその達成を要する。

<ユニプレスの目指す姿>

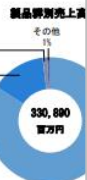
1. 市場ニーズを先取りした技術開発体制
2. 競争力No.1を維持するコスト開発体制
3. 自動車産業の持続的発展に対応したグローバル戦略体制

ユニプレスのミッション

人と地球の未来を守る。それがユニプレスのめざす技術です。

人と社会になくならないクルマに、今、大きな転機が訪れています。クルマを構成する数々の部品を軽量化することで燃費を向上させ、地球温暖化の原因の一つとされるCO₂の排出を抑える。そんな進化が求められています。ユニプレスは、自動車用プレス部品の総合メーカーとして、さまざまな技術開発を通じてクルマづくりを支えています。

そして今、高度なプレス技術を駆使して、安全性と環境性能を兼ね備えた次世代のクルマづくりに取り組みしています。地球環境と共生し、世界中の人々に笑顔を届けるクルマを造って、ユニプレスは挑戦を続けます。



ユニプレス CSR レポート 2018

UNIPRES CSR Report 2018

ユニプレス株式会社

物流での取り組み

<物流における温室効果ガス (CO₂) 排出量の削減>

ユニプレスの委託物流量は1,000万トン以下で、特定荷主には該当せず。省エネ法等の届出対象外ですが、物流における削減計画を策定し、削減努力を続けています。

2017年度はモーダルシフト等の施策を実施した結果、年度自主目標を達成することができました。

【物流量と物流に由来する温室効果ガス (CO₂) 排出量の推移】



<モーダルシフトによるCO₂の削減>

物流手段をトラック輸送から貨物鉄道輸送に転換することで、CO₂削減、交通渋滞の解消による大気汚染の



スポンサーシップ

ユニプレスは、本社や工場のある地域の団体や各種イベントを中心に協賛や支援を行っています。また、地域イベントにも積極的に参加しています。

<2017年度主なスポンサーシップ>

- ・横浜F・マリノス「トリコロールクラブ」
- ・横浜市リハビリテーション事業部「ココハバ・ヒューズセンター(アフリカランド)」
- ・日産流通「02センター「ゆらゆら21」
- ・全日本大学女子選抜駅伝競走「富士山女子駅伝」
- ・全国車椅子マラソン「日産カップ選抜チャンピオンシップ」
- ・静岡県富士市「富士まつり」



「ココハバ・ヒューズセンター(アフリカランド)」で協賛した、横浜市の障害センターに入学する子供たちが集った「ココハバ・ウェルカム・クラブ」

グループ会社の取り組み

国内外のグループ会社でも様々な取り組みをしています。2017年度に実施した一例をご紹介します。

◆福祉車両を福祉施設へご寄付に感謝【ユニプレス九州】

ユニプレス九州の創立40周年を記念し、地光みやこ前に福祉車両「ユニプレス九州号」を寄贈しました。助手席にはスライドアップシートが設置されており、支援を必要とするみなさんの移動手段としての活用が期待されます。



◆奨学金制度で地元の高校生をサポート【ユニプレスアラバマ会社】

地元の高校生の教育支援に1人約10万円の奨学金を給付する活動を行っています。2017年度は3校から45人の応募があり、各校から1人を選出。稼働以来3年間で延べ9人をサポートしてきました。



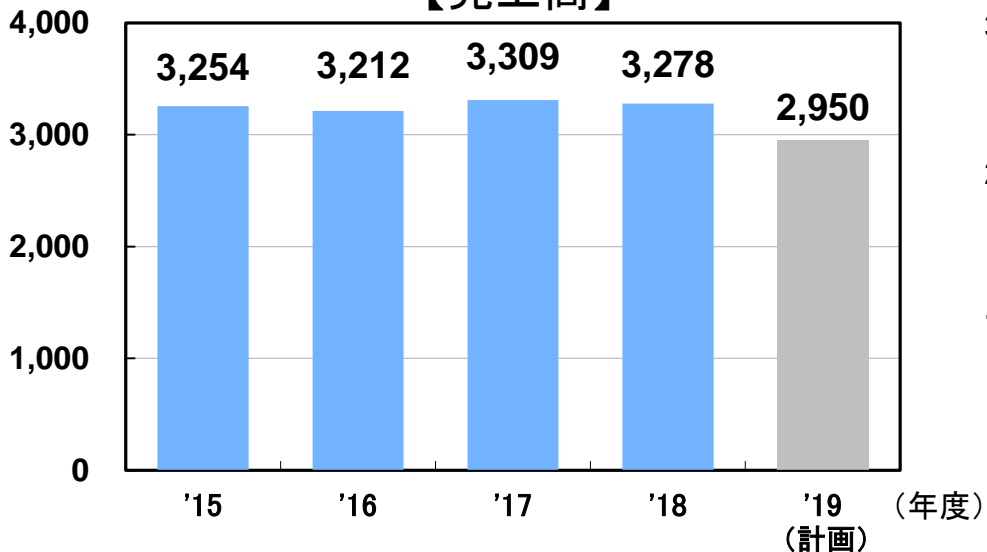


主要業績推移

参考資料

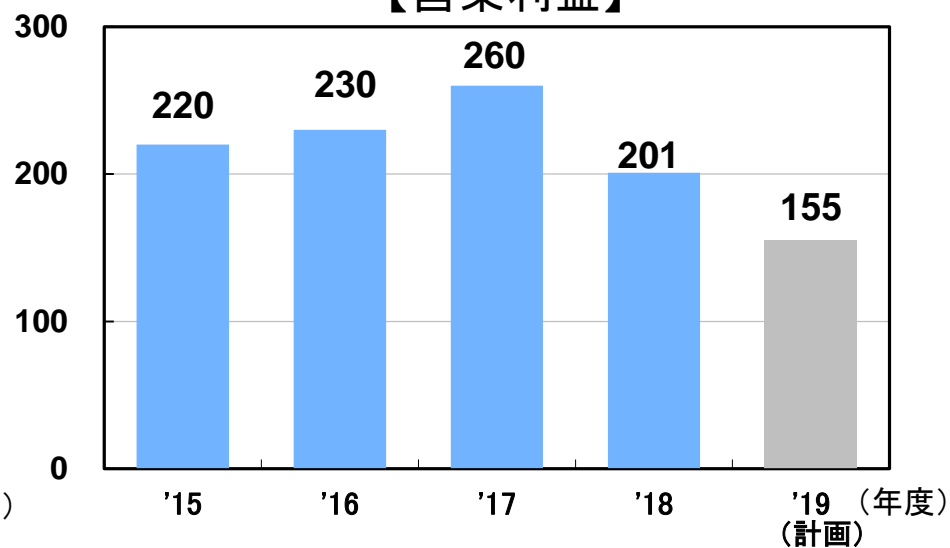
(億円)

【売上高】



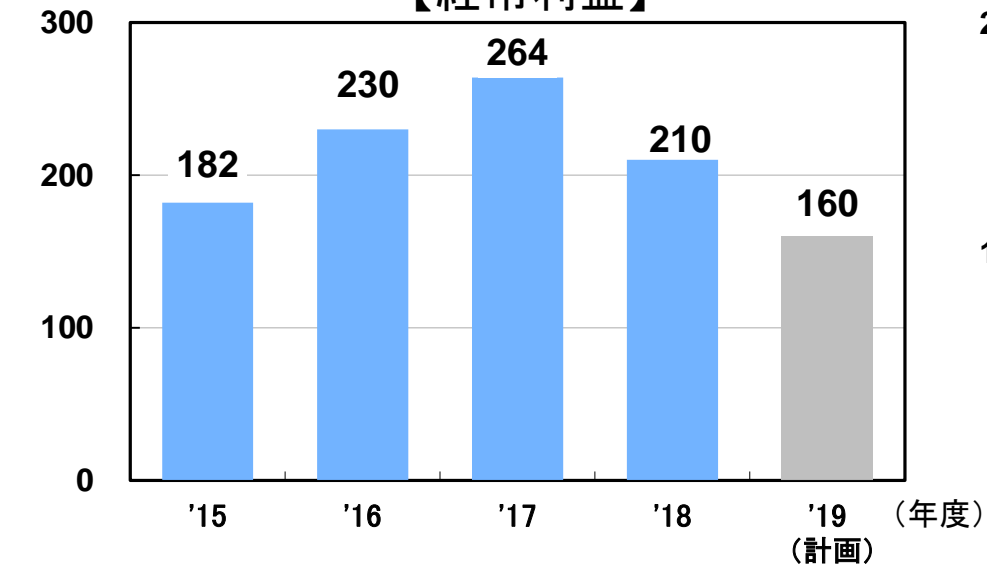
(億円)

【営業利益】



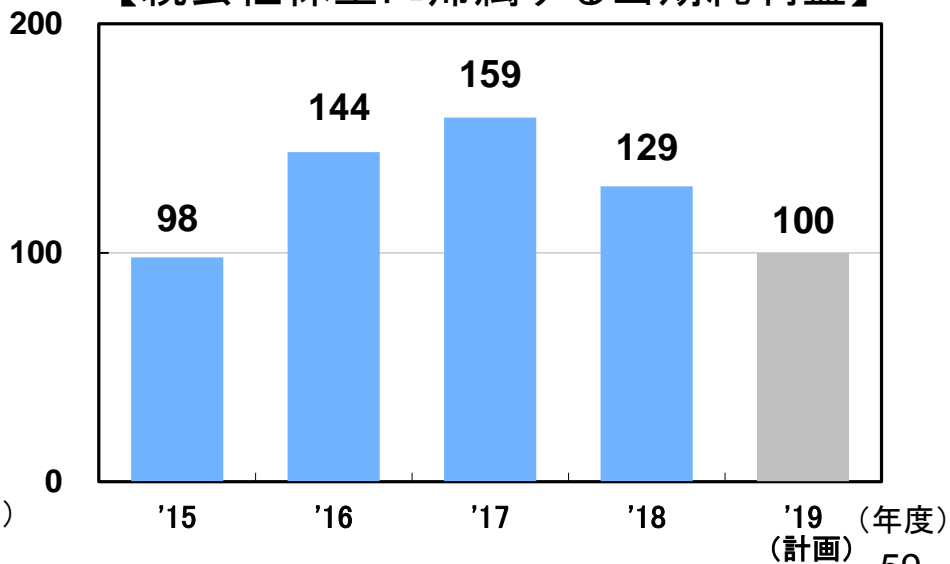
(億円)

【経常利益】



(億円)

【親会社株主に帰属する当期純利益】





UNIPRES

財務ハイライト

参考資料

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
売上高(百万円)	308,739	325,423	321,168	330,890	327,794
営業利益(百万円)	17,796	22,033	23,025	26,047	20,124
経常利益(百万円)	18,363	18,186	23,034	26,447	20,992
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	7,207	9,750	14,379	15,949	12,872
1株当たり当期純利益(円)	170.89	217.81	315.89	333.55	268.79
1株当たり配当金(円)	25.00	35.00	45.00	55.00	55.00
総資産(百万円)	238,356	233,274	241,052	246,779	251,185
純資産(百万円)	121,375	129,253	135,320	154,678	161,511
自己資本比率(%)	47.5	51.6	52.5	58.5	59.9
1株当たり純資産(円)	2,681.93	2,674.58	2,648.03	3,016.02	3,140.76
有利子負債残高(百万円)	42,777	30,333	22,445	13,143	13,149
営業活動による キャッシュフロー(百万円)	25,701	29,107	33,430	33,174	36,496
投資活動による キャッシュフロー(百万円)	△25,911	△18,613	△20,038	△22,917	△33,657
財務活動による キャッシュフロー(百万円)	3,392	△6,449	△4,148	△12,669	△4,524



主な財務指標

参考資料

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
売上高営業利益率(%)	5.8	6.8	7.2	7.9	6.1
売上高経常利益率(%)	5.9	5.6	7.2	8.0	6.4
総資産経常利益率 (ROA)(%)	8.2	7.7	9.7	10.8	8.4
自己資本当期純利益率 (ROE)(%)	6.7	8.3	11.6	11.8	8.7
EBITDA(百万円)	37,989	36,975	42,035	45,635	39,868
売上高EBITDA率(%)	12.3	11.4	13.1	13.8	12.2
EV/EBITDA倍率(倍)	3.2	2.5	2.3	2.1	1.6
配当性向(%)	14.6	16.1	14.2	16.5	20.5
純資産配当率(%)	1.0	1.3	1.7	1.9	1.8
配当利回り(%)	1.0	1.8	1.9	2.3	3.2
PER(倍)	14.3	9.0	7.3	7.2	6.4
PBR(倍)	0.91	0.73	0.88	0.80	0.55
総資産回転率(回)	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3



前提為替レート

参考資料

(円)

	2017年度 通期		2018年度 通期		2019年度 計画前提
	期中平均	期末	期中平均	期末	
米ドル	110.71	106.27	111.07	111.01	110.00
英ポンド	145.37	152.02	146.80	140.35	145.00
ユーロ	127.19	134.95	130.00	126.88	124.00
ペソ	5.95	5.74	5.75	5.64	5.70
人民元	16.63	17.30	16.64	16.14	16.20
ルピー	1.72	1.63	1.59	1.61	1.50
バーツ	3.32	3.46	3.41	3.41	3.45
ルピア	0.0084	0.0083	0.0077	0.0076	0.0075



株価の推移

参考資料

株価(円)



資料取り扱い上の注意

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で当社が知りうる情報をもとに作成されたものです。
あくまでも現時点での将来予想であり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績はかかる予想と大きく異なる結果となることがあります。
それらのリスクや不確定要素のうち、主なものは以下のとおりですが、これらに限られるものではありません。

- 主要市場(日本、米州、欧州、アジア等)の経済状況、消費動向、及び自動車業界得意先メーカー各社の業況・戦略等に伴う製品需給の急激な変動
- 原油価格や鋼材価格の高騰に伴う当社製品製造コストへの影響
- 為替相場の大幅な変動
- 金融・資本市場における金利等の変動 など